

復興の真実を伝えたい 陸前高田の佐々木さん

3月9日(土曜)午後2時より、日系6団体及び被災6県人会共催で「東日本大震災犠牲者三回忌追悼法要」追悼式典がサンパウロ日本文化福祉協会講堂で行われ、200名ほどが、犠牲者(行方不明を含む)は2万人超の冥福を祈った。

法要は、仏教連合会婦人部のコーラスではじまり、木田文協会長、園田県連会長が追悼の辞を述べた。法要の中で代表者や被災県人会が壇上で焼香。参加者、被爆者協会招聘の「高校生平和大使」や役員も焼香した。



追悼式典では、福島教輝総領事が日本国を代表として義援金や支援に対しお礼を述べた。

被災県を代表し永山福島県人会長が法要のお礼を述べ、被災県の高校生高野さん(福島)

佐々木さん(岩手)が被災体験



や復興の遅れなど現状を訴え、皆さんの温かい支援に対し感謝の意を表した。



式典では、被災県福島の高野桜さん(写真)は、原発から15キロ地点に実家(南相馬)があったが仮設住宅で暮らし、家族も離れ離れで高野さんは山形県で生活しているという。未だ自宅に帰れない現状や、2年経っても毎日復興の不安に怯えながら生活していると訴えた。放射能の風評被害の中で、自分たちは元気で頑張っていることを伝えたいと語った。



岩手の「佐々木沙耶さん」(陸前高田、写真)は、自宅が津波で流され仮設住宅に住んでいる。大きな地震から30分ほどで、地鳴りと共に大津波が近くまで押し寄せ、ぎりぎり高台に避難した。家族は無事だったが長年住み慣れた家はなく、高校は隣の大船渡高に通っていたと云う。風評被害もあり被災地の復興は遅れていると実情を伝えた。

ブラジルの高校生や皆さんの温かい心に感謝し、今後も「私たちのことを忘れないで」と訴えた。佐々木さんは3月初旬高校を卒業し、東京の大学で社会学(メディア)を勉強し「真実」を伝えたいとのことでした。

平和大使と交流会

3月9日午後6時から、宮城県人会で「高校生平和大使」や、ブラジル被爆者平和協会の森田会長、役員との交流懇談会が約30名で開かれた。

長崎の広島の高校生は、大使の役目は核兵器の廃絶と平和な世界の実現を目指す。各国の高校生に働きかけて1万人署名活動をこない、各国との交流を通してNPTや国連、国際機関に平和を訴えていると話した。

福島と岩手の高校生は、大震災の復興や現状を伝え、参加者の質問や提案に答えた。

交流会では食事をしながら、高校生を囲み和やかな懇談交流を計った。



「平和大使」岩手県人会を訪問

9日午後3回忌法要の後、宮城県での交流会までの時間に、平和大使の高校生4名と被爆者協会役員一行が当会を訪問した。

県人会は日本から遙か遠いブラジルで「ふるさと岩手」との交流や会員との親睦活動を行っている事を伝えた。

一行から「高校生1万人署名」に協力して欲しいとパンフレットが配られた。県人会からは活動ビデオや会報などの資料を提供し、一時の楽しい交流を行った。